

令和4年度学校評議員に係る諸報告について（報告）

1 学校評議員(学校関係者評価者)に意見を求めた事項及び学校評議員の主な意見

事項	学習指導・生徒指導
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・校内における授業研究や公開授業など授業改善に向けた取り組みの成果が生徒や保護者の評価にも表れている。今後、基礎力向上に向けた取り組みの成果についても検証願いたい。 ・コミュニケーション力の向上に向け、生徒がチャレンジするためには自己期待感が必要で、それを支えるための自己肯定感を養う環境を維持していくことが大切。今後も生徒の主体性を引き出す取り組みを期待している。社会常識に関する認識など、教員と生徒・保護者との間で時間をかけながらコンセンサスを図る視点も必要と考える。
事項	進路指導
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で制限がかかる中でも各年次で生徒の意識向上を図るプログラムが実施されている。これからも画一的な指導にならないよう、生徒個々に応じた多様な選択肢の提示など、適切な情報提供を進めてほしい。生徒が自らの将来に期待感を持って社会に出て行けるような体験の機会が充実することを願う。 ・地域に根ざした様々な活動を行っているロータリークラブやライオンズクラブに協力依頼してはどうか。
事項	特色ある教育活動
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・「田尻さくら通信」が田尻地区の全戸に配布されていることで、生徒の活動状況がよく伝わってくる。 ・重要文化財木造千手観音座像を所蔵している田尻総合支所や沼部公民館との積極的な連携を提案する。 ・田尻まちづくり協議会主催の青少年意見発表会では、今年度全国大会出場を果たした田尻さくら高生に参加いただいた。これからもさくら高校と地域のつながりを大切にしていきたい。
事項	防災教育
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ボランティアの活動は生徒の挑戦や成長につながる。今後、コロナ禍で失われていた地域と連携した訓練の機会が再開されていくことを期待している。 ・地震や風水害対応の訓練を定期的を実施することで、過去の災害から得た教訓を伝承してほしい。

2 上記1を踏まえて、学校運営の改善に取り組んだ（取り組む予定の）事例及び成果（期待される成果）

事例	<p>○今年度入学生より高等学校における新しい学習指導要領が完全実施された。昨年度までの備えをもとに、指導と評価の一体化を目指した授業改善に組織的に取り組んできた。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、本校の特色とも言える少人数授業・TT・ICT活用をベースに、引き続き校内における生徒の学習活動の充実を図り、基礎力向上へつなげる実践を重ねていく予定である。</p> <p>○文部科学省事業である「みやぎハイスクール・ネットワーク構築事業」の2年目を迎え、実際に他校への授業配信がスタートした。受信校とつないだ研修会を開催することで、直接担当する教員のICT機器の操作スキルの向上はもとより、担当者以外の教員のICT機器操作に対する意識向上にも大きく貢献することになった。</p> <p>○探究の時間を「さくらクエスト」と題して、探究活動の中で段階的に進路意識の醸成を図り、進路目標達成を目指す態度を育てている。</p> <p>○様々な学習歴や生育歴から多様な実態を持ち、積極的に学習に向かう意欲に乏しい生徒にとっても取り組むことができる学校設定科目の充実や、ICTを活用した基礎学力向上を目指した学習支援方法を探る。</p> <p>○各種行事において、生徒がより主体的に活躍できるよう環境整備を行い指導していく。また、「さくら文化講演会」や伝統文化に触れる行事など本物に触れる機会を通して、生徒の感情を豊かにし、心を育む取り組みを充実させる。</p> <p>○コロナ禍で3年間休止となった「さくらチャレンジ講座」の来年度からの再開に向け、社会人聴講生を受け入れる企画を進めながら異世代間コミュニケーションを図り、お互いを高めあえる環境を準備する。</p> <p>○さくら通信（学校通信）の地域住民への全戸配布、さくらギャラリー（昇降口のホール）の地域への開放等を行い、開かれた学校として地域に情報を継続的に発信している。田尻総合支所と連携し、今年度初開催の千手観音まつりに生徒がボランティアで参加した。</p>
成果	<p>○新学習指導要領に基づき日々の教育活動を展開する中でPDCAサイクルを回してきた。年2回授業研究のための研修会を開催した際には、検証と課題改善のためのワークショップにおいて、さらなる充実に向けた積極的な意見交換が見られた。引き続き生徒個々に個別最適な学習機会を提供を目指していくことになる。</p> <p>○個別の支援が必要とされる生徒に対しては、教育相談・特別支援委員会等で指導方法を検討し、組織的に対応する体制作りに取り組んでいる。</p> <p>○1年次における進路別見学会や、短期間ではあるが事業所の協力のもとインターンシップを行うなど昨年度できなかった体験学習を実施することができた。総合的な探究の時間や各種行事において、計画的に生徒個々に役割を与え、生徒が主体的に活動するための環境整備を行っている。</p> <p>○「さくらチャレンジ講座」（社会人聴講生制度）再開に向け、授業見学会や新春茶会を開催した。</p>